

時：7/13(火) 午後7時～9時

場所：福祉センター 22 研修室

参加者：17名

<医療・闘病>

1. 在宅医療について 竹内公子 資料 14 枚

① あいちホスピス研究会講座 第1回へ出席 2010/4/3

「地域で支える在宅緩和ケア」講師 ケアタウン小平クリニック 山崎章朗

*入院中は麻薬を持続的に皮下注射して疼痛コントロールしていた患者の中には、飲み薬、はり薬、座薬だけでコントロール出来ていると聞き「場(在宅)の力」を感じました。

*「独居で在宅緩和ケアは可能でしょうか？」との質問に対して「ただ言えることはお互いに支えあう友人、近所付き合いができているか、でしょうね。」

② 豊田地域医療センター30周年記念公開講座 2010/4/24

「心安らぐ場所:我が家で医療を」講師 三つ葉在宅クリニック 船木良真院長

*三つ葉クリニックは、約10人の医師が、450人の患者を定期的に訪問診療する。

*毎週医療レポートを作り、患者と家族、ナース、ヘルパー、ケアマネに伝える。

*今まで約1600人の患者さんにかかわり、半分位を看取ってきた。

*最後に「豊田市でも必ず在宅医療専門の医者が現れてくると思う。」

③ あいちホスピス研究会公開講座 第3回 に出席 2010/5/9

講師 落合恵子 作家、東京家政大学特任教授

*母親を7年間介護した。最後の2年間は胃ろうになった。今でもこれで良かったのかと思う。

*友人から縁起でもないといわれるが、毎年元旦に遺言状を書き換えている。

④ 豊田市における在宅療養支援診療所

16施設が指定されているが、活動の内容、広がり、深さはマチマチ

⑤ 豊田加茂医報

副会長である近藤先生(開業医)が掛かりつけ医について、自分の考えを述べている。医師の見解が、公の刊行物に載っているのは珍しい。

⑥ 岐阜市の在宅療養支援診療所 小笠原内科

「病院で死にたくないあなたに」と言う記事の紹介。(雑誌「ぬくぬく」より)

在宅の患者を365日24時間体制で診ている。一人暮らしのガンの患者も看取っている。

⑦ 豊田市内の訪問ナースステーションの紹介

詳細はインターネットで「介護サービス情報公表制度」の愛知県、豊田市で検索できる。

2. 私の病歴 松田幸子

*自分の病気、特にリウマチに悩まされてきた経過を説明。

* 初診では先生に伝えたいこと、先生にお聞きしたいことをメモにして持参する。また生まれてからの病歴を紙に書いて持参する。

* そうした経験を過ごしてきて、現在の人生観。

* 参加している「笑い学会」の説明。

笑いの効用は、高価な最新薬の効果に匹敵する。

3. 終末医療 河野悠子 資料 15 枚

① 終末期医療のガイドライン

終末期とは

* 医師が客観的な情報を基に、治療により病気の回復が期待できないと判断すること

* 患者が意識と判断力を失った場合を除き、患者・家族・医師・看護師などの関係者が納得すること、などの条件で定義される。

② あいちホスピス協会連続講座の第 4 回

傍らに在るといふこと〜ケアの実践を通じて〜講師 石垣靖子 元大学看護学部準教授

* がん患者へのアンケートの答。

「一生懸命自分を理解しようとしている人がいてくれるだけで十分です。」

* 人間は、状況がわかたらそれに耐える力を持っている。

* 家に居ると同じような、自由があり、くつろげるような病院はどうあるべきかを探るべく、患者や医療従事者との話し合いを重ねている。

③ 作家など著名人が語った言葉 の紹介

井上ひさし、斎藤茂太、永六輔、俵萌子など

④ 愛知県におけるガン診療連携拠点病院と相談支援センター

⑤ 自分が望む医療

もしもノート の 1 ページとして、自分の思いを実際に記載した。

⑥ 臓器提供に関して

日本における現状とみずからの意思表示についての説明

臓器移植法の改正 親族に対し優先提供可能に(2010/01/11)

15 歳未満の脳死下での提供可能に(2010/07/17)

⑦ 献体に関する誤解・・・大江健三郎の小説「死の奢り」内容は文学作品で事実ではない。

血管より保管処置を施した後、乾燥を防ぐ納体袋におさめ、保管庫で一体ずつ丁寧に管理されています。けっして、アルコールやホルマリンの水槽につけることはありません。

神戸大学「のじぎく(野路菊)の会)」

4. 尊厳死 徳島昭子 資料 3 枚

* 尊厳死は、死期を引き延ばすのではなく、天命の寿命に任せる死に方。

薬物投与など積極的な意思により死期を早める安楽死とは異なる。

* 尊厳死に関するガイドラインは出来ているが、ガイドラインでは医師は責任を取らされるのを恐れて、延命治療に傾きがちであり、やはり法制化が必要である。

* 尊厳死協会への入会方法や生前遺言(リビングウイル)の書き方について説明。

5. 医療について雑感 瀬川秀子 資料1枚

あと20年したら団塊世代の大量死の時代がくるそうです。きっと“持続的植物的状態には延命治療をしない”、“生命維持装置は〇〇歳以上の人にはつけない”というようなことになっているのかもしれませんがね？

終末期医療を自分で選ぶ時代はそう遠くないと思います。

6. 出席者で質疑、意見の交換

<もしもノート作成講座の終了とゆずりはの会の今後の活動>

1. 今後の活動について

- ① 1つの提案は、病気例えばガンについて、医療従事者、患者、市民グループが集まって話し合う会:ホスピス研究会のようなものを豊田市で作る。
- ② 施設の見学などをして、もっと福祉を勉強する、などの意見も出ました。
- ③ 今から、お盆をはさんで、時間をかけて考え、9月に有志で集まりたいと思います。ぜひ参加ください。

9月14日(火) 19時~20時30分

福祉センター 22研修室

お茶でも飲みながら、今後の進め方など、語り合う

この件に関して、意見のある方はご連絡ください。

<平成22年度の会計報告>

収入		支出	
昨年からの繰越金	36,937円		
会費	5,000円	発表講師への謝礼	36,500円
もしもノート売り上げ	14,000円	もしもノート買い入れ	14,600円
合計	55,937円		51,100円
現在手持ち			4,837円